

〔西宮渡辺心臓・血管センター 循環器内科〕

【研修内容と特徴】

西宮渡辺・心臓血管センターは、兵庫県西宮市にある心臓血管疾患及び脳血管疾患の 100 床の専門病院です。西宮市及び芦屋市が属する阪神南地域における救急、急性期医療を中心にして慢性期医療、回復期及び維持期リハビリなどの包括的な診療を提供しています。

特に救急診療においては、循環器疾患にかかわらず二次救急の輪番でもあり、阪神南地域から多くの搬送依頼があります。院外心肺停止患者に対して社会復帰率を向上させるため医師を現場に派遣するラピッドレスポンスカー（ラピッドカー）を運用し PCPS を用いた心肺蘇生(E-CPR)や低体温療法を積極的に行っています。24 時間 365 日緊急カテーテル治療・心臓血管手術に対応しており、特に循環器内科と心臓血管外科は合同でハートチームを形成し常に最良の治療方法を提供できる環境にあります。

急性循環器疾患を中心に症例数、処置・手術数は豊富で県内でも有数です。

早期から多職種が介入するチーム医療としての心臓リハビリテーションを超急性期から積極的に行っており、多職種協調チーム医療を実践できる環境にあります。

【研修のプログラム】

多くの症例を通じて総合内科専門医、救急専門医のもとで基本的な診療技術（病歴聴取や理学所見の取り方）や臨床推論の技術を学ぶことができる。

聴診等の身体所見の取り方から心電図、心臓超音波検査の実践を通じて循環器領域の疾患を幅広く経験し基本的な診療技量を修得する。

救急を通じて内科系 1 次疾患から 3 次救急救命疾患までを幅広く経験することで急性期疾患への基本的な診療、診断力を取得する。

ICU/CCU において重症患者の診療を受け持つことで幅広い対応能力を取得する。
当センターは循環器内科と心臓血管外科がチームとして治療を行っており内科疾患に限らない幅広い知識を取得できる。

最新の CT、MRI、超音波装置を用いた画像診断法について専門医のもとで学ぶことができる。
カテーテル治療は多く、様々な手術手技や術前術後管理を経験できる機会が多い。

【教育に関する行事】

月に 4 回程度教育目的の講義がある。

毎朝、ICU ラウンドにて教育目的のプレゼンテーションがある。

週に 1 回の循環器内科カンファレンスに加え外科との共同カンファレンスがある。

週に 1 回の多職種協同カンファレンスがあり、多面的な診療を学習できる。

月に 1 回抄読会がある以外にも学会活動が盛んで臨床研究カンファレンスがある。

月に 1 回重症患者の経過を振り返る M&M(Mortality and Morbidity)カンファレンスがある。

【研修医のカリキュラム】

病棟診療を指導医ともに行う。

検査は指導医とともに参加する。

指導医のもとで救急外来を担当し幅広い症例を経験する。

救急外来でプライマリケアに従事する。

【臨床研修の目標】

- 1) 医師として必要なプロフェッショナリズムを身につける。
- 2) 医師として必要なコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 特に急性期疾患に対するプライマリケアに必要な知識・技能・態度を身につける。
- 4) 身体疾患だけでなく、心理面社会面にも配慮した全人的医療を理解し身につける。
- 5) チーム医療の一員として多職種の役割を理解し、患者の立場に立って包括的に物事をみる能力を養う。
- 6) 担当医として個々の症例に対して問題点を明確にしてそれを解決していく主治医としての能力を身につける。
- 7) 症例のプレゼンテーション及びまとめ、発表する能力を身につける。
- 8) 文献検索などの情報収集によりエビデンスに基づいた治療を行う能力を身につける。
- 9) 患者指導、健康教室を通じて患者教育を実践する能力を身につける。
- 10) 保険診療を理解し、適切な診療を行う能力を身につける。
- 11) 医療事故を防止するためにその要点を理解しリスク管理について理解する。

指導医等

院長：山室 淳

センター長：民田 浩一

研修実施責任者

院長：山室 淳

〔西宮渡辺心臓・血管センター 脳神経外科〕

【研修内容と特徴】

当院は、現在、脳神経外科専門医 5 名体制で、そのうち 1 名は脳神経血管内治療専門医でもある。2015 年 7 月から SCU（ストローク・ケア・ユニット）を 6 床で開設しており、脳卒中患者に対する急性期治療・リハビリをチーム医療として行っている。脳外科的救急疾患は、脳神経外科専門医がホットラインで対応し 24 時間 365 日受け入れており、多職種連携による迅速な診断と治療が可能である。SCU 開設後、脳卒中症例も増加しており、手術症例も増えてきている。

法人内の西宮渡辺病院には回復期リハビリテーション病棟があり、また、介護療養型老人保健施設なども有しているため、急性期から回復期さらに慢性期にかけてのスムーズな移行・連携が可能である。また、循環器科診療が充実しており、急性循環器疾患の症例数、手術数も豊富であり、脳外科疾患だけでなく循環器系疾患を包括的に幅広く経験することができる。

【研修目標】

①一般目標

- ・ 患者に対する真摯な診療姿勢を持ち、患者・家族やスタッフとの良好なコミュニケーションを構築する。
- ・ 脳神経外科で扱う救急疾患について広く理解する。
- ・ 脳卒中を中心とした救急疾患に対する初期診療について習得する。
- ・ 治療方針決定への過程、手術適応の判断に関する考え方を理解する。
- ・ 常に最新の知識を取り入れ、科学的な思考に基づく究学心を育成する。

②行動目標

1. 基本的な神経学的診断、画像診断（CT、MRI、血管撮影）、生理学的診断を習得する。
2. 脳疾患特有の病態を把握し、生命や機能予後に関わる緊急度、重症度を理解する。
3. 基本的な脳神経外科手技（腰椎穿刺、気管切開術、穿頭術など）を学習する。
4. 脳血管疾患の周術期管理などを経験する。
5. 多職種でのカンファレンスにより治療ゴールを設定し、回復期リハビリ病院、慢性期療養施設等への転院や在宅療養につなげるまでの連携を学ぶ。
6. 脳梗塞の超急性期血栓吸引療法や、頸動脈狭窄症に対するステント治療、脳動脈瘤コイル塞栓術などの脳血管内治療を経験する。

【教育に関する行事】

週に 1 回、看護師、リハビリ、MSW などと一緒に病棟カンファレンスを行っている。

週に 1 回、ICU での IPW カンファレンスに参加。

指導医等

管理者：槌田昌平

脳外科・脳卒中センター部長：大森一美

脳外科・脳卒中センター副部長：神吉しづか

脳卒中内科部長：庄盛 由紀夫

研修実施責任者

院長：山室 淳